

# いのちの授業【家庭科】学習指導案

指導者 T・K

## 1. 本時の指導

(1) 題材 幼児虐待から考える

(2) 目標

幼児を守り育てるためには親としての自覚ある行動とともに家族・地域や諸機関の支援が欠かせないことに気付く。(家庭科)  
保護される立場から保護する立場に移ろうとしている今、自分自身が命に対して責任ある行動を取れるように心していかなければいけないことに気付く。(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	おもな発問( )と指示( )	指導上の留意点(・)と評価( )
導入	前時の新聞記事を振り返る。 2分  数人が、前時に書いた感想を読む。 5分	子どもの成長を支えるさまざまなはたらきや機関・法律などについて学習してきました。前時は幼児衰弱死事件の記事を読みました。この事件がネグレクトという虐待にあたり、両親が殺人罪で起訴されたという内容でしたが、書いてもらった感想を何人かに読んでもらいましょう。	前時の新聞記事 前時のワークシート
展開	どうすれば防げたかを考える。 3分  班で話し合う。 7分  発表する。 7分	どうすればこんな事件が防げたでしょう。 補助質問 この事件の原因は何だったろう？  班で話し合ってみましょう。  班で出た意見をどれかひとつ発表してください。	誰が、どうすればよかったかを考えさせる。(ワークシート)  班の中で自分の考えを出させる。特にひとつにまとめることを求めない。  ・親、祖父母、病院、児童相談所、近所などについてでればよい。
まとめ	幼児虐待を防ぐための手立てをまとめる。	この若い夫婦について話を聞いてください。 様々な立場の人たちがどのような行動をしていけばよいのかを、自分のことばでまとめてみましょう。 ・親の責任ある態度、心構え ・親以外の家族の援助 ・親をサポートする体制 ・近隣住民同士の関わり ・親同士のネットワーク ・それらのものを活用しようとする開かれた心理状態。	高校から付き合い始めた二人が、5年ほど交際して妊娠をきっかけに結婚、というよくあるパターンの普通の夫婦がなぜこんなことになってしまったのか？  思い通りに行かない育児の場面では、親としての自覚だけでは限界になることもある。だからこそ、子どもと親をサポートする関わりやシステム・機関が必要なのだということに気付かせたい。
いのちの授業	指導者の話を聞く。 5分  感想を書く 6分	授業を終えての感想を書いてください。	・虐待の原因 ・リスクを背負うということ ・リスクを減らしていくために求められる責任ある行動

(4) 評価

幼児を守り育てるためには親としての自覚ある行動とともに家族・地域や諸機関の支援が欠かせないことに気付くことができたか。(家庭科)

保護される立場から保護する立場に移ろうとしている今、自分自身が命に対して責任ある行動を取れるように心していかなければいけないことに気付くことができたか。(いのちの授業)